

春の彩り満開！ 春まつり開催



春を告げる大イベント、つがる市春まつり（市観光物産協会主催）が4月20日、21日に平滝沼公園で開催されました。初日の肌寒さから一変し、快晴と暖かな気温の中で2日目を迎え、満開の千本桜とともに多くの人でにぎわいました。

ステージイベントでは、市内のこども園や木造高校吹奏楽部、女舞姫と知求群会の合同演舞など、多くの出演者が歌や踊りを披露し、集まった人々を魅了。その中でも、ご当地アイドル「りんご娘」が桜をモチーフとした衣装で登場すると、まつりの盛り上がりはピークに達し、より一層会場が熱気に包まれました。約90店舗のクラフト展や出店のテント、キッチンカーがずらりと並び、来場者は足を止めて買い物を楽しむなど、春の訪れを感じながら楽しい時間を過ごしました。

青森市から訪れた家族連れは「つがる市にこんなに素敵な場所があるとは。桜もとてもきれいだし、いろんなお店もたくさんあって来年も是非来たい」と笑顔で話していました。



縄文遺跡案内人 魅力発信へ活動開始

今年も「つがる縄文遺跡案内人」によるボランティアガイドが始まりました。ボランティアガイドには13人が登録し、11月末までの期間、10時から15時まで案内人が遺跡に常駐し、個人や団体の来訪者に対してタブレットなどを使いながら分かりやすく解説をします。

この日、山谷教育長は「遺跡を訪れる来訪者にとって、ガイド解説が担う役割は極めて大きいものです。つがる市を背負って立つ存在として引き続きのご助力をお願いいたします」と激励しました。

ガイド3年目を迎える原田美子さんは「縄文遺跡の文化についてもっと勉強を重ねて、訪れる方にこの場所を今まで以上にPRしていきたい」と意気込みを語りました。



「頑張ろう」と掛け声を上げるガイドたち

自分たちの手で地域の安全を守る

4/19
市商工会



決意表明をする藤本総隊長

この日、市商工会館で「春の安全・安心まちづくり旬間」の出動式が行われ、防犯ボランティア団体や警察官ら約30人が、犯罪のない明るいまちづくりへの決意を新たにしました。

出動式では、市防犯協会長の倉光市長が「各防犯ボランティア団体が警察と連携して、安心して安全なまちづくりのため、今後とも積極的な地域安全活動にご協力をお願いします」とあいさつ。防犯指導隊の藤本正彦総隊長が「防犯ボランティアの中核として、街頭犯罪を抑止する活動を推進します」と決意表明しました。

出動式終了後には、パトカーを先頭に青色回転灯を装着した自主防犯パトロール隊の車両が市内を巡回し、防犯意識の向上を呼び掛けました。

つがるブランドの向上目指す

この日、地域ブランドの価値向上と地域経済の振興を図る「つがるブランド推進会議（会長・倉光市長）」の令和6年度総会が開催されました。

総会では、前年度の決算、今年度の予算案と事業計画案などを承認。今年度も、県内外でのPR販売活動や農作物の品質向上などを目指します。

また、新規取り組みとして、地域のブランド価値を高めるためのマーケティング戦略やプロモーション活動として、前年度に立ち上げた「つがる、つなげる。ミライ研究室」において、つがるの新たなお土産を生み出すことを目指して、今年度は試作品作りを計画していることが報告されました。

総会では、会長の倉光市長が「市場価値も年々上向いてきている。ここで満足するのではなく、より一層情報発信に努めていきたい」と話しました。

4/30
旧制木造中学校
講堂



事業計画を説明する倉光市長